

帰国生 入試情報

高度な英語力がなければメリットはない

～日本の学校の勉強についていけるだけの学力が求められる

米日教育交流協議会・代表 / 河合塾北米事務所・アドバイザー 丹羽 肇人

日本は受験シーズンの真っ只中です。受験の話題を見聞きすると、やはりお子さんの将来のことが気になりますね。受験は大変だけど帰国生入試は易しいと聞くと、知人や友人の子どもも有名校に入学しているから何とかかなるような気がするのも事実です。確かに、帰国生入試は海外の受験生に対して特別な配慮を行っている入試です。ただし、配慮される内容は様々ですし、入学後に特別な配慮を行う学校はごくわずかなのです。ここでは、帰国生入試に求められている学力について述べさせていただきます。

帰国生に求められている英語力とは？

帰国生を受け入れる学校が期待していることのひとつは、帰国生の国際的感覚と語学力です。異文化の中で育った帰国生が国内生に刺激を与え、学校の雰囲気も国際的になり、国内生の語学力が伸長することを狙っているのです。帰国生でも英語力の高い生徒を求めるために、英語重視の選考方法を導入する学校があります。大学入試では、アメリカ出身者には一次選考の書類審査の中でSATやTOEFLのスコアを利用する大学があります。高校入試においては、英検、TOEFL、TOEICなどの実力があれば、筆記試験が免除または緩和される特別推薦入試で受験ができたり、英語のみ、英語と作文というような英語中心の選考方法を導入している高校もあります。中学入試においても、英検、TOEFL、TOEICを重視したり、英語中心の選考方法を導入している学校がありますし、国語と算数に加え英語を課す中学もあります。

このような入試を行う学校では、英語が得意であれば有利だといえるでしょう。しかし、大学入試においても、先述の一次選考合格にはSATおよびTOEFLの高スコアが必要です。大学・学部や年度によっても異なりますが、SATでは1800～2100点、TOEFLは iBTで100～115点程度が必要な大学もあるのです。このようなスコアを獲得することは、アメリカ人の高校生でもなかなか難しいことです。また、高校入試でも、特別推薦入試の条件として英検では準1級、TOEFL iBTで79点以上を、中学入試でも、帰国生入試の受験資格として英検で2級～準2級、TOEFL iBTで42点以上を求める学校もあります。

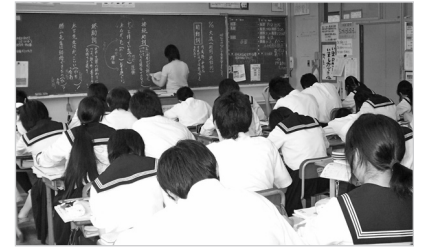
日本語での学力を重視する学校が圧倒的に多い

では、帰国生入試では英語が得意でないと不利なのでしょうか。確かに先述したような選考を行う学校では英語力が求められます。しかし、大学入試においては4分の3の大学がSATやTOEFLのスコアの提出を求めません。また、これらのスコアを提出しても合否には影響しないとか、一次選考や出願基準として利用しても、その後は合否判定に利用しないという大学がほとんどです。つまり、大学ごとに行われる筆記試験の結果が合否に影響するのです。筆記試験の内容は大学・学部によって異なっていますが、文科系学部では英語と小論文または小論文のみ、理科系学部では数学・理科と小論文というのが典型です。ここでの小論文は日本語が多いです。数学・理科は日本の高校での履修内容が出題範囲です。また、高校入試では英語・国語・数学という3教科、中学入試では算数・国語という2教科の筆記試験を大部分の学校が課しています。それぞれの教科の入試問題は、日本の中学や小学校の履修内容を基準にして作成されています。

一方で、大学入試では帰国生専用の入試問題が課されることが多いのですが、中学や高校入試では多くの学校で国内生と同じ入試問題が課されています。もちろん、帰国生には得点に加点したり、合格基準点を下げたりというような特別な配慮をする学校もありますが、目に見える配慮をしない学校もあります。

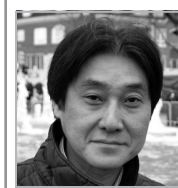
このように帰国生入試では、国内生と一緒に授業が受けられるだけの学力があるかどうかを判定されるのです。入学後も、帰国生の英語力を維持するために英語については取り出し授業などを行う学校や、放課後に授業や日本語の補習を行う学校もありますが、多くの学校では国内生と同じ授業を日本語で学習しなければなりません。つまり、帰国後に授業についていけるだけの日本語での学力を蓄えることが、アメリカにいる子どもたちに求められているのです。

英語で恩恵にあずかりたいなら高度な実力をつけることが必要ですし、英語力に関わらず、学年相応の日本語力、さらに日本の学校や社会に適応できる態度やマナーの修得を日常的に心がけることが大切です。



なお、本稿においては一般的な傾向についてのみ説明していますので、個別のケースについてはお気軽にお問い合わせください。

(電話：248-346-3818、E-mail: info@ujeec.org)



執筆者のプロフィール

河合塾で十数年間にわたり、大学入試データ分析、大学情報の収集・提供、大学入試情報誌「栄冠めざして」などの編集に携わる。また、大学受験科クラス担任として進学指導を行なう一方、進学講演を通じて高校生や保護者に大学入試情報を提供。また、米国・英国大学進学や海外サマーセミナーなどの国際的企画も担当。

1999年に米国移住後は、CA、NJ、NY、MI州の補習校・学習塾講師を歴任。2006年に「米日教育交流協議会(UJEEC)」を設立し、日本での日本語・日本文化体験学習プログラム「サマー・キャンプ in ぎふ」など、国際的な交流活動を実践。さらに、「河合塾海外帰国生コース北米事務所」のアドバイザーとして帰国生大学入試情報提供と進学相談も担当。また、デトロイトりんご会補習授業校講師も務めている。

